

・

北軽井沢にそびえる大木は、夜になると静かな気配をまとい、しばしばフクロウが訪れる場所です。この日も、闇の中を滑るように一羽が飛来しました。気づいた瞬間にカメラを構えたものの、その姿は音もなく枝を離れ、森の奥へと消えてしまいました。わずかな羽音だけが、そこに確かに命があったことを伝えてくれます。

そのあと、ふと見上げると、枝の合間にぼんやりとした光が浮かんでいました。雲に覆われた月が、淡くにじみながら夜空に滲んでいます。輪郭の曖昧なその光は、ただ美しいというよりも、どこか不気味で、見る者の心の奥に静かに入り込んできます。

裸の枝と絡み合うように浮かぶその月は、まるで異界への入口のようにも感じられ、「ヴァルプルギスの夜」を思わせる幻想的な光景でした。フクロウの気配と、雲に隠れた月の光が重なり、この森の夜には、日常とは少し異なる時間が流れているのだと実感させられます。

